

教養教育等 ポリシー

カリキュラム・ポリシー

■ 教育課程の編成方針

- ・芸術を専攻する学生に対して広い視野と多様な価値観への理解を育むことを目標とし、人文・社会・自然科学・情報・保健体育・外国語など専門課程以外の多様な価値観を教授する科目を展開しています。
- ・どの教科科目においても、時代に即した事例・応用とともに各学問分野の本質を教授することによって、学生の興味を引きつつ深い教養を育てます。

■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

- ・多様な興味・関心と専門性を持つ学生が、一人ひとりの適性と必要性に応じた科目を主体的に選択し学修できるように、外国語も含めたすべての教養科目を在学4年間の間にいつどのように履修するかを、学生自らが決定することができます。
- ・外国語科目では「読む、聞く、書く、話す」という言語リテラシーの基盤を育成することを目標とします。さらに中級および上級ではより高度な言語運用能力の養成に努めるとともに、多様化する国際社会で活躍できるような異文化理解力・コミュニケーション能力の向上にも配慮した指導をします。
- ・教職課程では、芸術大学としての専門性を活かした教員養成を行います。個別教育重視の専門教育に加えて、実践を重視した教職科目群を用意することで、芸術家としての確かなアイデンティティーを持った教員を養成します。

■ 教育課程の評価方針・方法

- ・学修成績は、各科目の担当教員が学生の自律的学修態度（予復習・個人的な探究）を反映する評価方法をシラバスに明確に規定し、これに基づいた厳密な評価を行います。